

観光英語教材の開発*

山内ひさ子，小田まり子**，河又貴洋

Development of Study Materials for Tourism English*

Hisako YAMAUCHI, Mariko ODA** and Takahiro KAWAMATA

Abstract

The Japanese government has been promoting tourism for the prosperity of its nation since 2003. Its “Tourism Nation Promotion Basic Plan” expects to receive 10 million visitors from overseas, and to send 20 million Japanese tourists abroad by the end of 2010. This campaign will greatly affect not only tourism industry, but also educational institutions which send out their students as workers for the industry. To cope with such a trend in society, the University of Nagasaki, Siebold, offers a course to study English for tourism, and we have started to develop multimedia study materials of English for tourism for classroom use supported by Grants-in-Aid for Scientific Research (20520509). In this paper, we introduce our sample study materials for the purpose of blended learning.

1. 観光英語の需要

日本政府は「観光立国」を目指し，平成15年の小泉政権時代に『Visit Japan Campaign』を開始し，平成19年9月1日には「観光立国推進基本計画」を策定した。この計画は5年計画で，その骨子は次の4点である。¹

国民の国内旅行及び外国人の訪日旅行を拡大するとともに国民の海外旅行を発展

将来にわたる豊かな国民生活の実現のため観光の持続的な発展を推進

地域住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会を実現

国際社会における名誉ある地位の確立のため平和国家日本のソフトパワーの強化に貢献

この基本計画の最終年度にあたる平成22年度には，海外からの観光客を1,000万人受け入れ，日本で開催される国際会議の数を平成18年度の2倍に増やし，国内観光旅行の平均宿泊数を1泊増加させ，日本人の海外旅行者数を2,000万人にして，観光旅行消費額を30兆円に増やすという具体的な数値目標を立てている。また，平成20年10月に国土交通省内に「観光庁」を設置し，海外へ日本観光のアピールと情報提供を行うとともに，日本の観光旅行者へ海外旅行に関する情報提供などのサービスを開始した。

図1は日本へ入国した外国人数と日本人の海外旅行出国者数の変遷を示したグラフである。² 訪日外国人旅行者数は年ごとに増加してきており，平成20年度の外国人入国者数は8,350,835人で，前年に比べて微増であった。しかし，米国の金融危機に始まった世界の経済の落ち込みによ

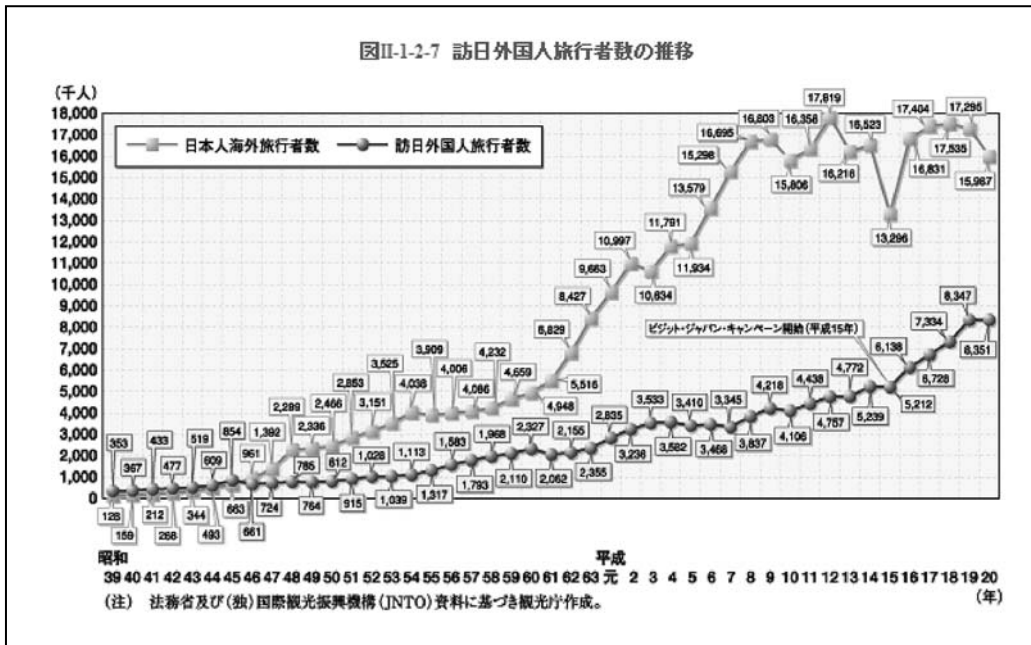


図1. 訪日外国人旅行者数及び日本人海外旅行者数の推移

る影響を受け、平成21年度は20～30%減が予想されている。日本人海外旅行者数は平成15年にイラン戦争とSARSの流行により一時1,300万人台までに減少したものの、その後増加に転じていた。しかし、平成20年は米国の金融危機の影響をまともに受けたため、海外旅行者数は1,600万人を割っており、さらに、21年は日本経済の回復の遅れと新型インフルエンザの流行により、20年よりも10%程度の減少が予想されている。このように、観光産業は世界の経済状態と流行病などにより影響を受けやすいので、計画どおりに訪日観光客数を増やすことも、日本人の海外旅行者数を増やすことにも難しい面があるものの、日本政府の方針では、観光産業の発展の促進を目指していることには変わらない。

そして、このような観光産業の発展を支えるべき外国語、とりわけ英語に関する資格試験として国土交通省認定の「通訳案内士」がある。これに加えて平成19年度より岩手県、静岡県、沖縄県と長崎県では「地域限定通訳案内士」という県内で有効な資格試験が新設され、外国人観光客への通訳や観光ガイドサービスなどの提供を充実させてきている。長崎県では「長崎県地域限定通訳案内士」試験が、長崎県観光連盟及び長崎県観光振興推進本部の主催により、英語、中国語、韓国語の3つの言語で行われている。³ ちなみに英語の場合、19年度は92名の受験者中、8名が合格し、20年度は90名の受験者中、18名の合格であった。なお、合格者はいずれも30代以上だった。

このような国内外の観光事情の変化と、観光に関する資格試験の多様化により、観光英語に対する需要が増加している。大学でも英語を主専攻とする学生の中には、英検やTOEICなどの資格試験に加えて、通訳案内士の資格を取得し、将来の職業として通訳案内士を目指す者や、旅行業社や地域の観光協会へ就職を目指す学生が増えてきているため、観光英語を教える大学が増えてきている。かつて観光英語は専門学校のみで教えられていたが、今日では大学や短期大学においても扱われるようになり、中には観光学部や観光学科などを持つ大学もあり⁴、卒業生を多く

観光業に送り出している。長崎県立大学シーボルト校には観光学部や観光学科はないが、山内の所属する国際情報学部国際交流学科の専門科目に「通訳Ⅰ」、「通訳」という科目が開設されており、山内担当の「通訳Ⅰ」(選択科目, 2単位, 後期開講)では、観光英語を教えている。この科目には受講制限があり、TOEICで550点以上の学生が受講できることになっている。受講生数は毎年増加の傾向を示しており、平成21年度は45名が受講登録を行っている。1学年の学科の学生数が80名なので、学科の約半数の学生が観光英語の学習を希望していることになる。

しかしながら、English for Tourism (以下、観光英語と表記)の分野の教育研究は立ち遅れている。これまで観光英語といえば、通訳案内士検定試験や観光英語検定試験のような資格試験対策の問題集や、旅行英語などのテキストの開発が主に行われてきた。また、日本の文化や歴史を紹介する英語の本はかなり出回っている。観光地に行けば、その土地の観光紹介の本やパンフレットなどは、英語、韓国語、中国語などで書かれたものも増えてきており、都道府県や市町村のホームページにも英語のページを設け、観光案内をしているところも多い。その半面、観光に関する英語自体の研究や観光英語の授業法の研究はあまり行われていないのが現状である。

したがって、著者らは平成20年度から3年計画で日本学術振興会の科学研究費補助金(課題番号: 20520509, 研究課題: 通訳観光ガイド英語マルチメディアCALL教材の開発とブレンド学習の研究)を受け、観光英語の語彙分析と通訳観光ガイド英語のマルチメディアCALL教材開発を始めた。この論文では、English for Specific Purposes (ESP)の中の観光英語の位置付けを考察し、マルチメディアCALL教材の試作教材を紹介するとともに、CALL教材利用の授業とface-to-faceによる授業を組み合わせたブレンド学習用の教材を紹介する。

2. ESPとしての観光英語の位置付け

English for Specific Purposesは通常、頭文字をとってESPと呼ばれるが、「特定の目的のための英語」と日本語には訳されている。寺内(2000)はESPを「学問的背景や職業などの固有のニーズを持つことにより区別され同質性が認められ、その専門領域において職業上の目的を達成するために形成される集団である『ディスコース・コミュニティ』の内外において明確かつ具体的な目的をもって英語を使用するために行われる言語研究、およびその言語教育」と定義している。

図2はJohns(1991)によるESPの分類である。この表の分類を用いれば、観光英語はESPの中でも「職業目的の英語」(EOP or English for Occupational Purposes)に入る。Scollon & Scollon(2001)はプロフェッショナルコミュニケーションが必要な職業として24職種をあげているが、その中にTour guideやTranslatorが含まれているので、観光英語は「専門職のための英語」

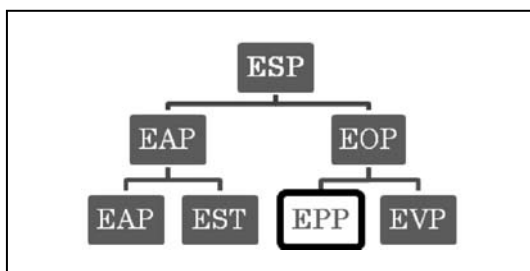


図2. Johns(1991)によるESPの分類

(EPP or English for Professional Purposes)に属することになる。

文部科学省の「中央教育審議会」は平成20年12月24日に「学士課程教育の構築に向けて」という答申を出した。⁵ その中に「専門分野を学ぶために必要な語学力の修得」というのが掲げられ、「英語等の外国語教育において、バランスのとれたコミュニケーション能力の育成を重視するとともに、専門教育との関連付けに留意する。」という文言が入っている。つまり、観光学部や観光学科の英語教育や、観光に関連する科目を専門教育に持つ大学では、観光英語を英語教育に取り入れ、専門に必要な英語力の養成が必要であると述べていることになる。

このように、観光英語はESPの中の位置付けがはっきりしており、また、大学の専門英語教育で積極的に行う教育内容であることが明確になってきている。加えて、「地域限定通訳案内士」の合格者が30代以上であることは、英語の専門性と共に観光情報にかかわる教養の必要性を示唆するものであり、「語学力と知識のバランスのとれたコミュニケーション能力」を育成することが重要であり、教養を涵養することは観光英語教育にとって必須条件となる。

3. 長崎県立大学、国際交流学科における観光英語教育

長崎県立大学シーボルト校には観光学部や観光学科はないが、「国際情報学部」の中に「国際交流学科」があり、その専門教育科目の中に「通訳Ⅰ」、「通訳」という科目が開講されている。「通訳Ⅰ」(山内担当)で観光英語教育が、「通訳」で同時通訳の訓練を行なっている。また、「長崎学1(長崎学総論)」、「長崎学2(長崎の歴史と文化)」、「長崎学3(日本の文学と長崎)」、「長崎学4(長崎の地域経済)」という科目も開設されており、これらの科目が「長崎県地域限定通訳案内士」の検定試験に直接関連のある科目であるといえる。⁶ 長崎県立大学は「県立」という名の示すとおり、長崎県が母体の大学であるため、長崎県観光振興推進本部の主催のこの検定試験に協力し、学生が資格取得を目指すような教育を行っており、上記のような正規の開講科目の他、「通訳ガイド研究会」を設け、自主的な勉強会も開いている。

山内担当の「通訳Ⅰ」では基礎的な観光英語の語彙、表現の学習、簡単な英語による日本文化の紹介、簡単な英語による長崎の地理、歴史、文化、産業を紹介するプレゼンテーションなどを行っている。受講学生は「TOEIC550点以上であること」という履修制限があるため、受講生のTOEICの平均点は600点程度であり、英検の2級以上の英語力を持つと思われる。しかしながら、観光英語の学習歴はなく、観光英語の基本的な語彙や表現を未習得の学生が多い。したがって、この科目では、観光英語の基本的な語彙学習を手始めとし、「通訳案内士」の検定試験問題程度の英語力の養成をするとともに、英語を用いて日本文化や日本事情一般の説明や、長崎県の文化・歴史や産業の説明ができるようになる英語力を養成することを授業の目標にしている。

4. 教材開発の主眼

著者らが行っている「通訳観光ガイド英語マルチメディアCALL教材の開発とブレンド学習の研究」では、次の3項目を土台として研究を進めている。

- (1) ニーズ分析に基づくこと
- (2) 観光語彙分析を行い、それに基づく語彙教材作成を行うこと
- (3) CALL教材と紙教材併用のブレンド学習教材を開発すること

4.1 教材開発のニーズ分析

教材開発のためのニーズ分析を行うために、学生にアンケート調査を行った。質問事項は大きく分けて3項目であった。長崎県内で他の県または国からの訪問者を案内したい場所(14か所)、日本国内で自分が観光を行ってみたい場所(21か所)、および、世界で自分が観光に行ってみてみたい場所(34か所)。それぞれの項目に列挙された場所の中から希望個所を5か所を選定させた。選定者数が多かった5か所を確定し、それらの場所を紹介する教材を開発することにした。アンケートの回答者は、長崎県立大学シーボルト校の国際交流学科の学生、情報メディア学科の学生、および久留米工業大学情報ネットワーク工学科の学生で合わせて179名であった。

調査結果を多い順に並べると、次の通りになった。

- ・長崎県内のトップ5
 1. 原爆資料館と平和公園
 2. オランダ坂, 大浦天主堂, グラバー園
 3. 出島と長崎歴史文化博物館, シーボルト記念館
 4. ハウステンボス
 5. 中華街, 孔子廟, 崇福寺, 興福寺
- ・日本国内の観光希望地のトップ5
 1. 京都の寺めぐり
 2. 沖縄の自然と文化
 3. 北海道の自然(知床半島, 釧路湿原, 阿寒湖, 摩周湖)
 4. 広島平和公園, 原爆ドーム, 宮島
 5. 種子島, 屋久島
- ・海外の観光希望地のトップ5
 1. フランス: パリ市内と郊外(ベルサイユ宮殿, ルーブル美術館など)
 2. イギリス: ロンドン市内と郊外
 3. イタリア: 古代ローマの文化遺跡
 4. オーストラリアの自然と動物
 5. アメリカ, カナダ: アラスカの自然と北極圏のオーロラ

このように、学生が選択した観光地はどこも定番となっている観光地や世界遺産に指定されている場所が多かった。これは、学生がまだ観光旅行に出かけた経験が少ないので、あまり人の訪れない場所や探検を伴う場所ではなく、まずは比較的评价の定まった旅行地を訪問したいという希望を反映したものと思われる。したがって、著者らは手分けをしてこれらの観光地を訪問し、教材開発に必要な資料収集と写真撮影およびビデオ撮影を行うことにした。

4.2 観光英語の語彙分析

山内は、「通訳案内士」の過去6年間の検定試験の英語の語彙分析を行った。図にその結果を示す。検定試験の長文問題で使用された単語数は7,873語であったが、その中の固有名詞と重複単語を除いたところ、2,088語が検出された。これをWOLAN⁷を用いてJACET4000⁸への含有率を調べたところ、約65%が含まれ、残りの約35%が含まれないことが判明した。今後の課題として、JACET4000に含まれていない語彙の内、JACET8000⁹とJACET4000の間にある語彙を調査する必要がある。そして、それらの語彙の学習を「通訳」で目指すことが適切であると思われる。

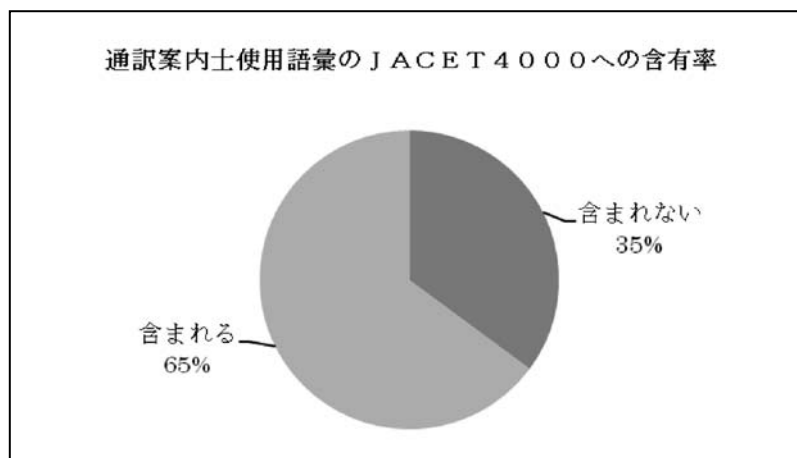


図3. 「通訳案内士」の長文に使用された語彙分析結果

観光英語の語彙分析の対象材料としては「観光英語検定試験」の問題、英語で日本文化や日本事情を紹介する本の英文などがある。今後、これらの材料に使用されている語彙も分析して、学習者に必要な観光英語語彙リストを作成する予定である。

4.3 CALL学習教材と紙教材併用のブレンド学習教材の開発

山内等(2001, 2002, 2003, 2008)はマルチメディアCALL教材を用いたコンピュータ利用の学習と紙教材を用いたface-to-face学習の両方の学習を行なうブレンド学習の方が、それぞれの単独の学習よりも教育効果が高いという立場から、開発する観光英語教材はブレンド学習が可能となるように、マルチメディアCALL教材と紙教材の両方を開発することを計画している。両教材の学習内容は同じであるが、異なるタイプのメディアを用いて学習することにより、一方が他方の学習を補完するものとして有効に作用すると考えている。

ブレンド学習とはコンピュータ利用の学習とそれ以外の学習を交えた学習形態のことである。Sharma & Barrett (2007) はブレンド学習を次のように定義している。

Blended learning refers to a language course which combines a face-to-face classroom component with an appropriate use of technology. The term technology covers a wide range of recent technologies, such as the Internet, CD-ROMs and interactive whiteboards. It also includes the use of computers as a means of communication such as chat and email, and a number of environments which enable teachers to enrich their courses... (以下省略)⁹⁾

山内が「通訳Ⅰ」ですでに実践している授業では、CD-ROM付きのテキスト教材を用い、インターネット上の情報を教材を利用している。また、学生はインターネット上の情報を利用しながらパワーポイントを用いたプレゼンテーションも行うので、学習形態はすでにブレンド学習であると言えるが、開発中のマルチメディアCALL教材を利用することが可能となれば、ブレンド学習の幅が更に広がることになる。また、この教材は学生のニーズ分析に基づくので、より高い学習動機が期待できる。

5．試作教材

著者らの科学研究費補助金による研究の平成21年度の研究計画では、前年度に資料収集を行ったものを利用して試作教材を作成することになっているので、さっそく教材の作成に着手した。山内等（2008）の研究を踏襲し、教材は語彙レベルからセンテンスレベル、そしてパラグラフ（エッセイ）レベルへと段階的に展開する教材とし、重要な語彙や表現が繰り返し出てくるような工夫をすることで、学習の定着が図れるように組み立てるものである。試作教材には河又がカナダで収集してきた資料、画像とビデオを使用した。資料を基に山内はパラグラフ（エッセイ）レベルの教材のもとになるスクリプトを完成させ、それを理解するための紙ベースの学習教材を作成した。語彙レベルの教材はL2 L1の一致、L2 L1の一致、L2 L2の一致の順に展開するものとした。センテンスレベルでは、ディクテーション教材と作文教材を作成した。パラグラフ（エッセイ）レベルの教材では、内容理解を問う問題を作成した。教材となったスクリプト、語彙、センテンスや英文設問などは長崎県立大学シーボルト校の外国人講師に読んでもらい、それを録音し、音声源として利用した。小田は紙教材と画像とビデオおよび、音声源をマルチメディアCALL教材作成支援システムであるQAWAII¹¹の改良版を用いてCALL教材を作成した。

完成した試作教材は内容的にはまったく同じであるが、紙教材とCALL教材では見た目異なるので、学習者には異なる学習のような印象を与える。

5.1 紙教材

図4～図7は紙教材の例である。この教材を用いる時はface-to-faceの授業形態を取ることになる。音声もなるべく教師の肉声を使い、教師と学生は対話をしながら学習を進めていく。

．次の左欄の語彙と右欄の意味を結びましょう。		
1 . hemisphere	・	・ 現象
2 . atmosphere	・	・ 極光，オーロラ
3 . phenomenon	・	・ 大気圏
4 . ionosphere	・	・ 半球
5 . polar lights	・	・ イオン圏（電離圏）

図4．L2 L1一致の語彙の紙教材例

．次の左欄の語句と右欄の意味を結びましょう。		
1 . magnetic pole	・	・ the outer part of the air surrounding the Earth
2 . atmosphere	・	・ the space region dominated by its magnetic field
3 . phenomenon	・	・ impressive beauty, power, or size
4 . ionosphere	・	・ the mixture of gases surrounding the Earth
5 . grandeur	・	・ one of the two poles that the needles on a compass point

図5．L2 L2一致の語彙学習の紙教材例

面である。ここに入力された情報により, 教材利用者の個人の学習管理と利用クラス全体の学習結果を管理することができる。図9は学習者個人に提示される学習教材リストと学習結果を示す画面である。教材リストをクリックすると学習教材が提示される。図10はL1 L2一致の語彙教材例である。解答終了後に図10の下にあるような「採点と結果」のボタンを押すと, この教材一覧表の右端の欄に正答率が表示される。アンダーラインの部分をクリックすると一致する英語の音声を聞くことができる。

カナダ:リスニング教材

ID: test

番号	問題	結果
1	Canada 語彙1(英語音声→英単語)	100
2	Canada 語彙1(日本語→英単語)	100
3	Canada 語彙1(英語音声→英単語)	40
4	Canada 語彙2(英語音声→英単語)	100
5	Canada 語彙2(日本語→英単語)	
6	Canada 語彙2(英語音声→英単語)	
7	Canada 語彙3(英語音声→英単語)	100
8	Canada 語彙3(日本語→英単語)	
9	Canada 語彙3(英語音声→英単語)	
10	Canada 語彙4(英単語→英文説明)	
11	Canada 語彙5(英単語→英文説明)	20
12	Canada 語彙6(英単語→英文説明)	
13	Canada センテンスレベル1	
14	Canada センテンスレベル2	
15	Canada パラグラフレベル	

図9. 教材一覧表と学習結果表示画面

Canada 語彙問題1

英語音声聞き、その単語に相当するものを選びなさい。

問題

- 極光、オーロラ
 phenomenon polar lights hemisphere ionosphere atmosphere
- 現象
 ionosphere atmosphere polar lights phenomenon hemisphere
- イオン圏
 ionosphere phenomenon atmosphere polar lights hemisphere
- 半球
 hemisphere atmosphere polar lights phenomenon ionosphere
- 大気圏
 hemisphere phenomenon atmosphere polar lights ionosphere

採点と解答 (GO)

解答やり直し (CLEAR)

図10. L1 L2一致の語彙CALL教材例

図11はセンテンスレベルの教材例で、**音声**の部分をクリックすれば英文が流れるので、それを聞きながら英文を完成する教材である。図12はパラグラフ(エッセイ)レベルのリスニングコンプリヘンションの教材画面である。**映像**の部分をクリックすると、動画と音声流れる。**字幕あり**の部分をクリックすると音声に伴い、字幕が画面の下に表示される。学生は必要に応じて何度も繰り返し音声を聞くことができる。この教材を使用する場合、どの学習教材も100%正解にすることが要求されるので、100%に到達しない学習者は繰り返し学習しなければならない。



図11. センテンスレベルのCALL教材例



図12. パラグラフ(エッセイ)レベルのCALL教材例

6．今後の課題

著者らが行っている観光英語教材の開発はまだ試作段階である。今後，次のような研究の展開が必要である。

- (1) 試作教材を実際に使用してみて，教材の改良点，システムの改良点を探る。
- (2) 観光語彙分析を進め，観光語彙リストを作成し，それに基づく語彙教材を開発する。
- (3) 収集した資料を基に，半期15回分の紙教材とCALL教材を作成する。
- (4) 作成した教材を用いた授業を実践し，ブレンド学習の効果を数値的に実証するためのデータ収集を行う。
- (5) 作成した教材を用いてのブレンド学習とインターネットリソースやプレゼンテーションを含む複合学習の効果的な授業法の理論化をする。
- (6) 教材を複数の大学（佐世保校など）で使用できるようにする。

また，学習者へのアンケート調査などを重ね，教材レベル，1回の学習量，教材内容などの適正さやシステムの使いやすさなどを検証し，より使いやすく，より学生のレベルと関心に適した教材を作成するために改良を重ねる予定である。

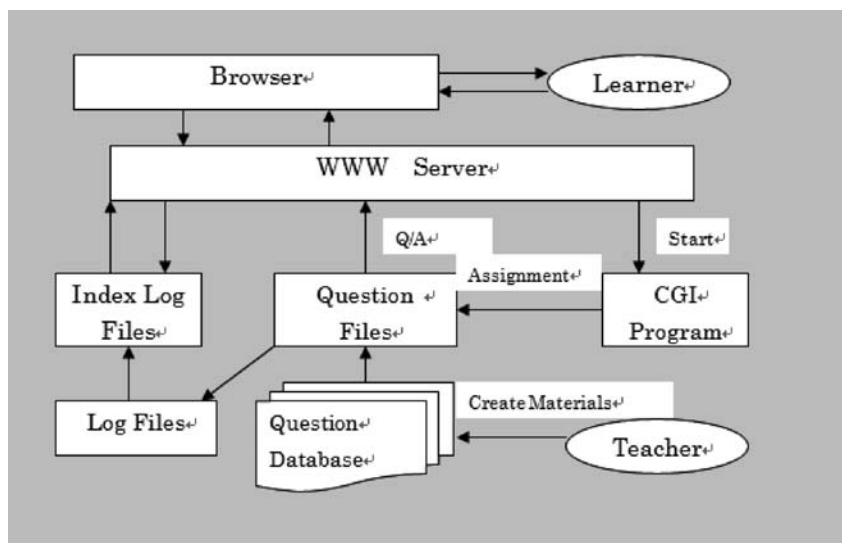
*この論文は平成21年6月20日に開催された第23回JACET九州・沖縄支部研究大会において口頭発表した内容に加筆したものである。

**久留米工業大学，工学部，情報ネットワーク工学科講師

注

- 1．<http://www.mlit.go.jp/kankocho>（平成21年8月26日）
- 2．同上
- 3．<http://www.nagasaki-tabinet.com/public/>（平成21年8月28日）
- 4．たとえば，立教大学，和歌山大学，札幌国際大学に観光学部が設置されている。東洋大学や奈良県立大学などに観光学科が設置されている。
- 5．<http://www.mext.go.jp>（平成21年6月15日）
- 6．「長崎県地域限定通訳案内士」の試験科目のうち1次試験として8月末に「外国語（英語，韓国語，中国語のうちの1科目）」の筆記試験が行われるが，これは「通訳案内士」と同じ試験問題である。この外国語の試験とは別の日に長崎の地理，歴史，産業，政治，経済，および文化に関する筆記試験が行われる。これら2種類の試験が1次試験で，その合格者は12月に2次試験としての外国語による面接試験を受ける。
- 7．『WOLAN (WOrd Level ANalyser)』は英単語の語彙レベル検索を行うソフトウェアで，山内，竹中&中野（2002）が開発した。
- 8．『JACET基本語4000 (JACET4000)』は大学英語教育学会の教材研究委員会が開発した語彙集。
- 9．『大学英語教育学会基本語リスト：JACET8000 (JACET8000)』は大学英語教育学会（JACET）基本語改訂委員会が作成した語彙リスト。
- 10．Sharma, P, & Barrett, B. (2007). *Blended Learning*. Macmillan. p.7.
- 11．『QAWAII』は小田&小田（2000）が開発したCAI教材作成支援システムで，このシステム構造は次頁の図のようになっている。これまでのシステムはシステム管理者による一括ユーザ登録をするようになっていたが，小田は新たにクラス担当教員がWebページ上でのユーザ

登録を行う機能を追加した。



参 考 文 献

- Dudley-Evans, A. & St John, M. J. (1998). *Developments in English for Specific Purposes*. Cambridge University Press.
- Hutchinson, T. & Waters, A. (1987). *English for Specific Purposes*. Cambridge University Press.
- Johns, T. (1991). Should you be persuaded-two samples of data-driven learning materials. *ELR Journal*, Vol. 4.
- Jordan, R. R. (1997). *English for Academic Purposes*. Cambridge University Press.
- Robinson, P. (1991). *ESP Today: Practitioner's Guide*. Printice Hall.
- Sharma, P, & Barrett, B. (2007). *Blended Learning*. Macmillan.
- Scollon R., & Scollon S. (2001). *Intercultural Communication*. 2nd Edition, Blackwell.
- Yamauchi, H. & Oda, M. (2008). The Effectiveness of Blended Learning: CALL and Paper-Based Materials. *Annual Review of English Learning and Teaching, No.13*. JACET Kyushu/Okinawa Chapter, pp. 71-82.
- Yamauchi, H., Takenaka, I, & Nakano, K. (2002). Development of On-line Software Checking Vocabulary Level. *JACET Annual Review of English Learning and Teaching No.7*. JACET Kyushu/Okinawa Chapter, pp.69-80.
- 小田誠雄, 小田まり子. (2000). 「CAIシステム作成ツールQAWAIIの開発」『教育システム情報学会誌』 Vol.17 . No.3 , pp.435-442.
- 大学英語教育学会 (JACET) 基本語改訂委員会 (編). (2003). 『大学英語教育学会基本語リスト: JACET8000』 大学英語教育学会.
- 大学英語教育学会 (JACET) 教材研究委員会 (編). (1993). 『JACET基本語4000』 大学英語教育学会.
- 寺内一(2000)「第1章ESPを知る」深山晶子(編)『ESPの理論と実践 - これで日本の英語教育

が変わる』三修社. pp.9-32.

中野秀子, 山内ひさ子, 小田まり子. (2007). 「授業におけるCALL共催の効果的利用: ブレンド学習のパイロットスタディ」『ESPの研究と実践』第6号, pp.67-77.

山内ひさ子. (2007). 「大学における英語カリキュラム開発 - 久留米工業大学の場合 - 」『平成15年度採択特色GP報告書 外国語教育の再構造化 - 自立学習CALLと国際的人材養成』京都大学高等教育研究開発推進機構, pp.162-176.

山内ひさ子. (2002). 「ESP教材論 - False BeginnersのためのESP教材」『ESPの研究と実践』大学英語教育学会九州・沖縄支部ESP研究会, pp.6-21.

山内ひさ子, 中野秀子, 小田まり子. (2008). 「ESP教授法に基づくCALL教材の共同開発を利用」LET Kyushu-Okinawa Bulletin, No. 8. pp.29-43.

山内ひさ子, 竹中一郎, 中野克彦. (2004). 「WWW対応英単語語彙レベル分析支援システム (WOLAN) の開発と適用」『久留米工業大学研究報告』No. 27, pp.17-26.

<http://www.mext.go.jp>

http://www.mlit.go.jp/kankocho_

<http://www.nagasaki-tabinet.com/public/>